

札幌白石産科 婦人科病院の 無痛分娩

無痛分娩とは

- ・ 麻酔薬を使用して陣痛の痛みを和らげて出産する方法です。当院での麻酔方法は、背中から細いチューブ(カテーテル)を入れ麻酔薬を投与する硬膜外麻酔で行います。
- ・ 麻酔の効き方には個人差があり、最も痛い痛みを10としたときの0～3程度の痛みでの管理を目標としますので痛みが完全になくなるわけではありません。
- ・ 無痛分娩開始のタイミングは規則的な陣痛がきて子宮口が4～5cm程度開大してからになりますので、それまでは痛みを感じます。

当院での無痛分娩

- ・ 当院では硬膜外麻酔による無痛分娩を行っています。
- ・ 入院日は内診所見により決定いたします。
- ・ 予定入院前に陣痛発来や破水で入院された場合や入院中であっても夜間・休日は、無痛分娩を行うことはできません。



無痛分娩の条件

- ・ 妊娠38週～40週
- ・ 赤ちゃんの頭が下がり頸管(子宮の出口)がやわらかく熟化していること
- ・ 医師が硬膜外麻酔施行可能と判断した方
- ・ 無痛分娩クラスを受講された方

無痛分娩が困難な方

- ・ 児頭骨盤不均衡の方
- ・ 血液が固まりにくい疾患の方
- ・ 脊椎の手術をしたことがある
- ・ 方神経系の疾患のある方
- ・ 局所麻酔薬アレルギーの方
- ・ 頸管が熟化していない方

Schedule

スケジュール

20-25週

無痛分娩クラスを受講

36週

採血、レントゲン検査、心電図検査
同意書のご提出

37週

外来で内診し、38週以降で入院日を決定します

入院1日目

頸管を熟化させる処置を行います

入院2日目

頸管が熟化している場合は分娩誘発を行います

背中からカテーテルを挿入します

無痛分娩がお産に与える影響

- 麻酔薬が赤ちゃんに影響を与えることはほとんどありません。
- 麻酔導入後に赤ちゃんが一過性の徐脈になることがあります。
- 子宮口が完全に開いてから分娩になるまでの時間が、自然分娩に比べて長くなる場合が多くあります。そのため吸引分娩・鉗子分娩を行う頻度が高くなります。
- 無痛分娩により帝王切開は増加しないと言われています。

無痛分娩のメリット

- 痛みを軽くすることにより、分娩時の不安や疲労を軽減することが期待できます。
- 疲労を少なくすることで産後の回復が早くなったと感じる人が多いと言われています。
- 途中で帝王切開となった場合に、無痛分娩で使用していたカテーテルを使用できるためスムーズな移行ができます。

麻酔による副作用・合併症

一般的な症状

- 足の力が入りにくくなります
- 血圧が低下することがあります
- 尿意を感じなくなり導尿が必要となることがあります
- 体温上昇や痒みができる場合があります

まれだが重篤な症状

- 予期せずに脊髄くも膜下腔に麻酔薬が入ってしまい、重症の場合は呼吸ができなくなったり意識を失ったりすることがあります。
- 血液中の麻酔薬の濃度が高くなり、中毒症状が出る場合があります。
- 麻酔の針の影響で強い頭痛がおき、場合によっては処置が必要になることがあります。
- 硬膜外腔や脊髄くも膜下腔に血のかたまりや膿がたまり、手術が必要になることがあります。

※重篤な合併症が起こった場合には高次施設(大学病院など)へ搬送となります。

お気軽にお問合せ下さい

無痛分娩 対応可能時間

平日 9時～17時
(分娩の進行状況により変動あり)

- 安全のため無痛分娩は上記時間のみの対応を基本としています
- 陣痛促進剤を使用しての計画分娩を原則としております。

費用

- 初産の方 10万円
- 経産の方 8万円

通常分娩費用に上記金額がプラスされます
※入院期間等によって変動があります

完全予約制

32週までにお申し込み下さい。
先着順のため予定数に達し次第締め切ります